

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学校の教育目標

学校教育目標
○「文武不岐」実践のもと、知・徳・体を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成
○グローバルで活躍できる「アントレプレナーシップ精神」を持った生徒の育成
目指す学校像
○主体性を持って様々なことに挑戦でき、自己の可能性を広げられる学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

○社会課題を解決し、自己の在り方生き方を考えながら自らの将来を切り拓くため、以下の資質・能力を育成する。
1、先を予測する力/予測する力
2、課題設定能力（着眼点）
3、人を巻き込める力（コミュニケーション能力）/行動力
4、新規性・模倣困難性が高い構想力
5、アントレプレナーシップ精神（忍耐力・意欲・継続力など）

総合的な探究の時間の学習評価

①個人ワークによる授業評価（課題設定から解決方法立案）
②グループワークによる授業評価（探究ゼミ選択）
アウトプットの学習機会創出による、プレゼンテーション能力、自己表現能力、チームワーク力などを評価する。
校内イベント：探究成果発表会（2月）
校外イベント：IBARAKI ドリームパス（1月）

生徒の実態

- 素直で真面目、向上心は有しているが、より高い目標を設定し、挑戦する意欲が今まで以上に必要である。
○公的交通手段や、知的・物的刺激が乏しい地域に在住する生徒が多い。
○地域の特色や伝統文化に目を向ける機会は比較的多いが、自らの世界を広げようという冒険心や意欲にはやや欠けている。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- 協力企業・大学・自治体による専門的なアドバイス（楽天・LINE ヤフー・茨城大学・下妻市役所等）
○チームでの対応を徹底する（教員・SC・各家庭・外部機関等）

目指す生徒の姿

獲得した知識・技能を活用することができ、アントレプレナーシップが向上し、社会参加に向けて意欲的な生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

1年：地域共創プログラム
下妻市をフィールドに、「地域課題の解決策」「地域素材の有効活用」についてグループで考察する。地域の方々と連携し、「共に下妻市の魅力を創出する」ことを目指す。最終的には生徒たちが企画書・提案書を作り、下妻市に提言する。

【育成を目指す資質・能力】
問題解決能力・創造的思考力・情報分析力・主体性

2年：探究ゼミ
自分の興味・関心や志望する学問分野の研究室（通称：ゼミ）を選択する。その中で関連する研究テーマ（仮説）を立て、調査活動を通して仮説の検証を行う。各研究室には該当学年の教員に加え、専門的な知見を有する外部人材との連携のもと、指導を行っていく。

【育成を目指す資質・能力】
問題解決能力・創造的思考力・情報分析力・主体性

その他：進路探究
自己分析・進路探究を行う。

学習活動、指導方法等

- 【学習活動】
①グループによる協働学習
②専門的知見を有した外部講師を招待しての体験学習
③学校の枠にとらわれない能動的な学習（フィールドワークなど）
【指導方法など】
④ビッグデータを用いた情報分析（DS インサイト）
⑤非認知能力を可視化
⑥校内発表の機会充実（ポスター発表・プレゼン）
⑦キャリアツアーなど長期休業期間を使った進路探究イベントの企画
⑧他校との探究活動に関する情報交換会
⑨外部コンテストへの応募（IBARAKI ドリームパス）
⑩作成した計画書・提案書へのフィードバック

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- 探究推進部・・・主任1名ほか8名で構成する。学年の要望を聞きながら、探究部と学年が共同して取り組む。
○協力をいただく外部機関（予定）・・・楽天、LINE ヤフー、大丸百貨店、TOKYO MX、下妻市役所、茨城大学など。
○将来の理系人材の育成・・・データサイエンティストによる文理横断型の探究的な学びを計画。デジタル上での社会課題をデータの裏付けにより導きだし、解決方法を考える。（DS インサイトの活用）
DX ハイスクールとして、デジタル活用の拠点となる事を目指す。